

福島県郷土資料情報

No.58 2018.2

(特集「郷土福島の人物調べ・虎の巻」)

編集・発行:福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>



～当館所蔵『朝河貫一資料』より～

目 次

特集「郷土福島の人物調べ・虎の巻」	1～6
平成 29 年度「ふくしまを知る連続講座」報告	7
朝河貫一コレクション～没後 70 年に寄せて～	8～13
福島の児童文学者 40-2「長田弘」	14～15
福島県関係書誌の紹介 2017	16～22

郷土福島の人物調べ・虎の巻

「うちのご先祖さまについてもっと詳しく知りたい!」「業界史を作りたいが功労者の業績が分からない…」等々、郷土に足跡を残した人々への関心はどれだけ経っても尽きないもの。しかし、野口英世や新島八重子のような有名人ならまだしも、ローカルな有名人の調査はなかなか名前が出ないばかりか「そもそもどの資料から調べたらいいの!？」という場合もしばしば…。そんな経験やお悩みをお持ちの方に、この「虎の巻」をお送りします。少しでもお役立ていただければ幸いです。

壺. 知りたい人物についての情報を整理すべし

「彼を知り己を知れば百戦殆からず」。まずは対象人物に関して自分が持っている情報を整理し、調査の手掛かりとなる「キーワード」を見つけましょう。

- (1) 名前は? (漢字・読み) 例えは…「野口英世」「のぐちひでよ」「野口清作」
- (2) いつの人? (年代・時代) 例えは…「明治」「大正」「昭和」
- (3) どの人? (地方・郡・市町村等) 例えは…「猪苗代」「耶麻郡」「三ツ和村」
- (4) 何をした人? (職業・功績等) 例えは…「細菌学者」「医師」
- (5) その他 (情報があれば何でも!)

貳. 福島県立図書館について知るべし

当館で地域資料を探す場合、下記のような方法があります。

(1) 蔵書検索機能

図書館のホームページや館内の検索端末 (OPAC) には、所蔵している本を探せる検索機能があります。まずは先に見つけておいた「キーワード」を調べてみましょう (複数のキーワードを組み合わせてもOK)。当館では郷土雑誌の記事見出しや執筆者が調べられる工夫をしているので、案外あっさり資料が見つかる場合も…?

(2) 地域資料コーナー

90年近い歴史を持つ当館には、古くから収集された数多くの福島県関連資料が保存されており、「地域資料コーナー」に配置されています。資料は本のラベルについた「分類番号」順に並んでいますので、番号を手掛かりに探してみましょう。

※郷土の人物調査に関わりの深いテーマ・分類番号

「県史・市町村史」L210~219 「人名事典・人名録」L281
「系譜・家伝」L288 「個人の伝記」L289

〈実際のラベル例〉

L289	分類番号
N1	
1	

参、知りたい情報に合った資料を活用すべし

当館では人物調査の役に立つたくさんの資料を所蔵していますが、載っている情報の範囲は資料によって違います。自分が持っている情報や知りたい情報に合わせて資料を使い分けることが、ゴールへの近道です。

〈入門編〉氏名から調べる

氏名が判明している人物を調査する場合、下記①～③の資料が非常に有効です。

①『福島県史 第22巻 各論 人物』福島県 1972 L210.1/F1/1-22

収録人数の多さ・カバーしているジャンルの広さから、人物調査の基本的資料として有用です。「第1編 人物」では古代～出版当時に至るまでの物故者の略伝を、「第2編 人名索引」では、県史内における人物の掲載箇所を知ることができます。

②市町村史

県史では紹介されていない人物や、説明の少ない人物も、出身地の市町村史であれば詳しい解説が載っていることがあります。

③『福島県人物風土記』暁教育図書 1982 L281.08/F7/1

県史に比べると収録人数の多さでは劣りますが、イラスト・写真をふんだんに盛り込み、市町村ごとに人物を整理する等、読みやすさに優れます。文化遺産や地区ごとの歴史紹介もあり、郷土史の入門書としても有用な資料です。巻末に人名索引あり。

郷土の人物が書いた資料・郷土の人物について書かれた資料を探したいときはこちら。

④『福島県人物書誌総覧』菅野俊之／編 工房ポチ&アプリコット 1999 L025.1/K1/3

福島県関係人物の著書目録、紹介されている図書の情報を人物ごとに紹介しています。

⑤『郷土ゆかりの人々 地方史誌にとりあげられた人物文献目録』

飯澤 文夫／監修 日外アソシエーツ 2016 281.031/17 161/

1997年（平成9）～2013年（平成25）に発行された地方史研究雑誌・地域文化誌及び地方史関係記事が比較的多く掲載される全国誌約2,200誌から、19,877人に関する人物文献46,729点を収録した資料です。活躍地域（都道府県別）の下、50音順で人物及び記事内容が掲載されています。巻末に人名索引あり。

ここまで紹介した資料でも、カバーし切れていない人物はまだあり、そのような場合には少し視点を変えた調査が求められます。次ページからは〈発展編〉として、更に掘り下げた調査をするための資料をご紹介します。

〈発展編1〉時代を手掛かりに調べる

調査対象の人物が生きた時代や出身地が判明していれば、下記の資料が役立ちます。

【江戸時代】

江戸時代の福島は、多数の藩や幕府によって治められていました。領地ごとの資料をまとめて調査するには、下記の資料が便利です。

①『福島県史 第8巻～第10巻(近世資料)』福島県 1965-1968 L210.1/F1/1-

『福島県史』の近世資料編は、4巻に渡って藩・領地別ごとの史料を収録しており、人物名簿の類も載っています。全年代をカバーしているものではありませんが、藩士は主に「分限帳」と呼ばれる名簿に、領民は「人別帳」(戸籍のようなもの)等に名が見られます。

※各巻の収録藩及び幕領・神領

8巻：磐城平藩・泉藩・湯長谷藩・小名浜領・白河藩・越後高田領・棚倉藩・塙領

9巻：相馬藩・福島藩・桑折藩・梁川藩・川俣領

10巻(上)：二本松藩・三春藩・守山藩・下手渡藩・下村藩・分領

10巻(下)：会津藩・南山御蔵入領・長沼藩・大久保藩・三枝領・神領

②『三百藩家臣人名事典 第2巻』家臣人名事典編纂委員会／編 新人物往来社 1988

L281.03/S4/1

1600年(慶長5)～1871年(明治4)までの家臣事典。会津藩・下手渡藩・下村藩・白河藩・棚倉藩・福島藩・三春藩・守山藩の8藩が収録されています。巻末に人名索引あり。

なお、各市町村史にも『福島県史』に無い史料が載っている場合があります。また、会津藩・相馬藩等は、その藩のみに絞った人名録が出版されており調査に便利です。

【明治～昭和時代(戦前)】

①『福島県人名辞典』時事通信社編輯局／編 時事通信社 1914 L281.03/J1/1

明治～大正時代にかけて活躍した県人の人名辞典。いろは順に名前が並んでおり、人物によっては肖像写真も載っています。

②『都道府県別資産家地主総覧 福島編(全2巻)』渋谷隆一／編 日本図書センター 1995

L281.03/S5/1-

明治～第二次世界大戦終了時まで発行された資産家名簿・地主名簿・長者番付の集成。福島編では1888年(明治21)～1930年(昭和5)の全11資料を復刻・掲載しています。

③『福島県紳士紳商録』福島県紳士紳商録刊行会 1930

県内在住の名士の他、東京・仙台・大阪・樺太在住の県人も加えた約1,000名を紹介した資料です。「法人ノ部」では、当時の県内企業情報についても知ることが出来ます。

【昭和（戦後）～平成時代】

地元新聞社による年鑑等、定期刊行の資料が見られるようになり、利便性がアップしています。

①『みんゆうデータブック（旧：福島県年鑑）』福島民友新聞社

1947-2015（年刊・2015年版をもって刊行終了） L059/F1/

②『民報年鑑（旧：福島縣市町村年鑑）』福島民報社 1951-（年刊） L059/F2/

この2種類の年鑑には、公民問わず職員名簿・人名録が掲載されています。出版年代によって掲載内容に差異がありますが、1つの年や期間に絞っての調査が可能です。

③『福島県 人物・人材情報リスト』日外アソシエーツ株式会社／編集 日外アソシエーツ 1994-（隔年刊） L281.03/F17/

出版年時点で活躍している人物を中心に、物故者および在日外国人も含めた県の著名人約3,000名を収録。略歴等の基本情報の他、その人物が掲載された図書・新聞の見出し情報も付記されています。いま現在活躍中の福島県人を知る上で、特に有用な資料です。

〈発展編2〉職業・業界を手掛かりに調べる

特定の職業団体や業界によって出版された資料には、普通の人名録には登場しない人物や詳しい功績が掲載されていることがあります。下記にその一部をご紹介します。

【県知事】

・『全国知事会六十年史 資料』全国知事会 2007 318.2/セノ07X/2

p65-67に、昭和中期～2006年（平成18）の期間に在任した県知事・副知事・出納長の氏名及び就任・退任年月日が掲載されています。

【市町村長】

・『福島縣市町村要覧』福島県総務部市町村総室／編 福島縣市町村振興協会 1986-（年刊） L351/F5/1-

県内市町村の市町村長・副市町村長・議長及び副議長名が掲載されています。

【医師】

・『福島県医師会史 下巻 資料篇』福島県医師会 1981 L490.6/F2/2

p515-709「第八部 主なる医師略歴（明治39～昭和54）」で県医師会に在籍していた主な医師約1,000名について、略歴や医師会における役職等を掲載しています。

【農業家・林業家・蚕業家】

・『福島県農業史 5 人物』福島県 1983 L612/F3/5

福島県の農業・林業・蚕業に功績を残した人物844名の略歴を掲載しています。

【学校長】

・『明治百年福島県教育回顧録』福島県公立学校退職校長会 1969 L372/F8/1

県在住の公立学校長経験者（退職者・現職小中学校長・物故者等）の略歴を掲載しています。なお、学校が絞られていれば各学校史（誌）も役立ちます。

肆. 先人の残した足跡に学ぶべし

実際に県立図書館に寄せられた調査事例を2件ご紹介します。

【質問 No. 1】

「木村吉清」について知りたい。安土桃山時代の武将。蒲生氏郷の客臣となり、与えられた杉目城を福島城と改称。「福島」の名付け親となったといわれる。

【回答】

1. 氏名から調べる

- (1) 『福島県史 第22巻 各論編 人物』福島県 1972 L210.1/F1/1-22
→p116「木村伊勢守吉清」の項があります。

2. 時代を手掛かりに調べる

- (2) 『福島県史 第9巻 資料編 近世資料2』福島県／編 福島県 1965 L210.1/F1/1-9
→p567「9 福島城と検地村高」に「木村伊勢守」の記述があります。
- (3) 『福島県史 第10巻下 資料編 近世資料4』福島県／編 福島県 1968 L210.1/F1/1-10-2
→p5「1代々領主変遷および会津古壘記」の「蒲生氏郷」の項に「蒲生公之長臣 高五万石 福島 木村伊勢守」の記述があります。
- (4) 『福島市史 第2巻 近世』福島市史編纂委員会／編 福島市教育委員会 1972 L211/F6/2
→p3-41「第1編 幕藩体制の成立 第1章 蒲生領時代」の「第1節 蒲生氏の信達支配」
「第2節 福島城主（蒲生の支城）木村吉清支配の村々」に多数記述があります。

3. 「福島城」をキーワードに調べる

- (5) 『ふくしまの城（歴春ふくしま文庫 57）』鈴木啓／著 歴史春秋出版 2002 L081.6/R1/57
→p44-「福島城」の項に「木村吉清」の記述があります。
- (6) 『福島考古 第42号』福島県考古学会 2001.3 L210.02/F11/42
→p105-118「福島城の変遷と構造」鈴木啓／著に「木村吉清」の記述があります。
- (7) 『福島県文化財調査報告書 第197集 福島県の中世城館跡』福島県教育委員会／編 福島県教育委員会 1988 L709/F2/3-197
→p21「杉目城（大仏城、福島城）」の項に「木村吉清」の記述があります。

4. 「蒲生氏郷」をキーワードに調べる

- (8) 『蒲生氏郷のすべて』高橋富雄／編 新人物往来社 1988 L289/G2/4
→p238「蒲生氏郷家臣人名事典」に「木村伊勢守吉清（清久・弥一右衛門）」及び「木村秀望（弥市右衛門）」の項があり、父子に関する記述があります。

【一言コメント】氏名・時代が特定出来ているため、県史や市史が活用できたケースです。『福島考古』のような雑誌掲載記事も、キーワード検索で見つけることができます。

【質問 No. 2】

明治・大正にかけて活躍した会津若松出身の植物学者「大沼宏平」について知りたい。

【回答】

1. 氏名から調べる

(1) 『福島県史 第22巻 人物』福島県 1972 L210.1/F1/1-22

p117に「大沼宏平」の項目があり、生没年・出生地・死亡地・伝記・参考文献と略歴の記載があります。

2. 郷土の人物について書かれた資料を調べる

(2) 『会津人物文献目録』野口信一／編纂 歴史春秋社 1980 L281.6/N3/1

p66に「大沼宏平」の項目があり、生没年・職業・別名・続柄と関連文献の記載があります。また、氏について記載のある文献として(3)(4)の紹介がありました。

(3) 『会津生物研究資料集 1』会津生物同好会／編・刊 1968 L460.8/A1/1-1

p1-p3「大沼宏平氏伝」(馬場篤／著)に、大沼氏の生い立ち・人となり・研究業績が紹介されています。また、参考文献として(4)の資料が紹介されています。

(4) 『植物採集行』末松直次／著 西ヶ原刊行会 1931 470.49/S/

「この小著を大沼宏平翁の墓前に捧げる」との献辞があり、序文においても大沼氏の紹介と彼の死を悼む文章が書かれています。また、収録されている植物採集行の逸話に大沼氏が登場し、氏の写真も掲載されています。

【一言コメント】

県史に加え、参考文献(本を書くときの情報源となった資料)を芋づる式に辿ることで色々な情報が得られたケースです。参考文献も調査を進めていく上での大きな手掛かりの1つです。

伍、終わりに～インターネットでの情報公開を活用すべし～



図書館では、調査に役立つ資料の紹介や事例の公開など、インターネット上でも情報公開をしております。ぜひご覧ください。

【調査に役立つ資料紹介は県立図書館ホームページから！】

「本の森への道しるべ 地域 54-56 郷土福島の人物を調べる」では、今回ご紹介した資料も含めた多くの人物調査向け資料を紹介しています。ぜひ下記アドレスよりご覧ください。その他、県史・市町村史の目次情報も随時公開中です。

～本の森への道しるべ「福島県に関すること」～

<<https://www.library.fks.ed.jp/ippan/honomori/honomori-chiki.html>>

【調査事例の紹介は「レファレンス協同データベース」から！】

当館の調査事例は、国立国会図書館「レファレンス協同データベース」でご覧いただけます。該当HPトップ<<http://crd.ndl.go.jp/reference/>>⇒「詳細検索(レファレンス事例)」⇒検索条件「提供館名」に「福島県立図書館」を指定することで閲覧可能です。

(地域資料チーム 阿部誠)

平成 29 年度 「ふくしまを知る連続講座」 報告

当館では県民の皆様の文化振興に寄与するため、「ふくしまを知る連続講座」を実施しています。ここでは今年度開催したものを簡単に紹介します。

第 1 回 「縄文土器から探る地域間交流」

講師：三浦武司氏（福島県文化財センター白河館 [まほろん] 専門学芸員）

開催日：平成 29 年 6 月 18 日（日）14：00～15：30 参加人数：55 名

縄文時代の土器は、基本的に煮炊き用の鍋と考えられる深鉢形が最も多く、時代や用途の多様化によって、盛り付けに使用されたとみられる浅鉢形や、口縁部に装飾的な突起がついたもの、動物や人の顔を表現したものなどさまざまな形が見られます。放射性炭素年代測定の値や土器の形、底の編み物の痕跡等から読み取ることのできる当時の地域間交流、縄文人の暮らし・食生活などについて解説していただきました。

*平成 29 年 6 月 2 日（金）から 7 月 5 日（水）にかけて当館展示コーナーで開催された、「縄文土器の年代Ⅱ－縄文中期の世界に迫る－」（まほろん移動展示）の関連講座。

第 2 回 「現存数日本一！ ふくしまの算額の魅力」

講師：白岩信博氏（福島県和算研究保存会事務局長）

開催日：平成 29 年 7 月 30 日（日）14：00～15：30 参加人数：44 名

江戸時代に花開いた日本独自の数学「和算」は、武士の間に限らず町民や農民たちの間にも広まりました。その問題や解法を記して神社仏閣に奉納した額や絵馬を「算額」といいますが、算額の現存数は福島県が日本一、また田村市船引町にある安倍文殊菩薩堂の算額の大きさは全国一とのこと。県内で活躍した有名な和算家には、安藤有益や磯村吉徳、渡辺一、佐久間庸軒などがあります。そんな算額に秘められた魅力を、本講座としては初めてのワークショップ形式で解説していただきました。

第 3 回 「檜枝岐村文書の魅力～近世山村の景観と生業～」

講師：渡邊智裕氏（福島県歴史資料館副主幹）

開催日：平成 30 年 1 月 28 日（日）14：00～15：30 参加人数：40 名

檜枝岐村は平成 29 年に村政独立 100 周年を迎えました。村教育委員会より福島県歴史資料館に寄託されている「檜枝岐村文書」は、会津郡古町組檜枝岐村名主で沼田街道檜枝岐口留番所役であった星縫殿之助家の伝来文書です。講座で取り上げられたもののうち「檜枝岐村絵図」（文書 235）には沼田街道沿いに分布する家々の当主名が記されており、右上には村の明細が記されているなど、当時の概要を知ることができます。村の中心的生業であった小羽板こばいたの生産と流通、白峯銀山しらぶをめぐる領有権の争いなどについても解説していただきました。

*平成 30 年 1 月 5 日（金）から 2 月 12 日（月）にかけて当館展示コーナーで開催された、「檜枝岐村文書の世界」（福島県歴史資料館移動展）の関連講座。

（地域資料チーム 二階堂 千紘）

朝河貫一コレクション～没後 70 年に寄せて～



当館所蔵『朝河貫一資料』より

当館の特殊コレクションの一つに「朝河貫一資料」があります。1984(昭和 59)年に朝河貫一の親族より寄贈され、当館が福島市森合の地に移転したオープン時の特別企画展として紹介したコレクションです。

朝河貫一は、1873(明治 6)年二本松市に生まれました。旧制安積中学校を卒業、東京専門学校(現在の早稲田大学)に進み、1895(明治 28)年に渡米、歴史学を研究した国際的な学者です。ダートマス大学を経てイエール大学に学び、両大学で 40 年近くにわたり教鞭をとりました。私生活では 1905(明治 38)年アメリカ人ミリアムと結婚(1913 年死去)。その後、教授に昇進し 1942(昭和 17)年に名誉教授となりました。

主な著作として『日本の禍機』『大化改新の研究』『入来文書』などがあり、日欧両史や比較法制史の研究等、実証的法制史家として世界的に高い評価を得ました。1948(昭和 23)年夏、米国の静養先で 74 歳の生涯を終え、本年度で没後 70 年になります。

コレクションは約 2800 点あり、そのうち書簡が 2551 点と最も多く、写真など約 260 点を所蔵しています。朝河が書簡をしたためる場合、先ず草案を手書きかタイプ印書により作成し、推敲の上、手書きかタイプで浄書し発信することが多く、毎日曜日を長文の書簡執筆に宛てるなど受信書簡を丹念に保存していたようです。その生涯を終えるまで、これらの発信書簡案文と受信書簡原本は大切に保存されていました。野口英世が 1921(大正 10)年 9 月に朝河に送った英文の書簡や、徳富蘇峰・大隈重信・坪内逍遙ら多くの著名人との交流が伺える書簡も残っています。

なかでも有名なのは、「**大統領親書草案**」です。朝河は日米関係の悪化を憂い、ルーズベルト米大統領から日本の昭和天皇へ直接「戦争回避」を呼びかける親書を送るよう友人である美術史家 ラングドン・ウォーナーとともに動きました。開戦の直前 1941(昭和 16)年 11 月 23 日に書き上げた趣意書 3 枚 本文 7 枚のタイプで打たれた草案です。

このコレクションは、朝河の公私にわたる交流がうかがえる資料として現在も多くの研究者に活用されています。1996(平成 8)年に書簡のみをデジタル化して原資料を保存、デジタル版を公開しています。また、著作やイエール大学図書館に保管されている英文の日記や書簡・ノート類がまとめられた『Kanichi Asakawa Papers』(マイクロ版)等も収集し、関連する資料の充実に努めています。このたび没後 70 年に併せ、当館 HP にてコレクション目録を公開、6 月-8 月に「海を渡ったサムライ-朝河貫一没後 70 年記念展-(仮)」を開催する予定です。主だった書簡を展示し、記録映像等の上映や職員によるギャラリートークを計画しています。この機会に朝河博士からのメッセージを受け取ってみませんか？

福島県立図書館所蔵 朝河貫一関連資料一覧

◆著作◆

書誌事項	請求記号
『Kan'ichi Asakawa Papers[マイクロフィルム版]』Yale University Library Yale University 米国 1986 35mm 全10リール	MF289/A1/2-
『THE EARLY INSTITUTIONAL LIFE OF JAPAN』朝河貫一/著 早稲田大学出版部 東京 1904 23cm 6,355p	LA210.3/A1/1
『安積中學英語教師ハリファックス留任嘆願書 新訂版』武田徹/[編] 朝河貫一博士顕彰協会 [福島] 2006.7 21cm 52p	L376.4/A11/9-2
『ポーツマスから消された男 朝河貫一の日露戦争論(横浜市立大学叢書4)』矢吹晋/著・編 訳 東信堂 東京 2002.2 19cm 174p p9-53「ポーツマス日露講和交渉と朝河貫一」矢吹晋/著, p54-101「日露衝突序説」, p102-142「東洋の戦争を導いたいくつかの事件」, p143-164「ポーツマス条約論」朝河貫一/著 矢吹晋/訳	L289/A7/34
『安積中學英語教師ハリファックス留任嘆願書』武田徹/[編] 朝河貫一博士顕彰協会 [福島] 2006.5 21cm 52p	L376.4/A11/9-1
『横浜市立大学論叢 社会科学系列 第53巻第2・3合併号, 第54巻第1号』横浜市立大学 2002-2003 「満州における日本1-2」朝河貫一/著	LA319.1/A1/4
『横浜市立大学論叢 社会科学系列 第55巻第2号』横浜市立大学 2004.3 p97-146「中世日本の寺院領の生活」朝河貫一/著	LA210.4/A1/1
『横浜市立大学論叢 社会科学系列 第55巻第3号』横浜市立大学 2004.3 p99-132「初期の荘と初期のマナー:比較研究」朝河貫一/著	LA210.4/A1/3
『横浜市立大学論叢 人文科学系列 第54巻第1・2・3合併号』横浜市立大学 2003 p459-496「武士道とはなにか 近代日本が封建日本に負うもの1912年」朝河貫一/著	LA156/A1/1
『横浜市立大学論叢 人文科学系列 第55巻第1号』横浜市立大学 2004.3 p267-306「源頼朝による幕府の樹立」朝河貫一/著	LA210.4/A1/2
『大化改新』朝河貫一/著 柏書房 東京 2006.7 22cm 334,310,3p	LA210.3/A1/2
『中央学院大学社会システム研究所紀要 第6巻第2号,第7巻第1-2号,第8巻第2号,第9巻第1-2号,第10巻第1号』中央学院大学社会システム研究所 2006-2009「翻訳:『露日紛争』(連載1-7)」米田富太郎/訳 佐藤寛/訳	LA210.67/A1/2-
『中世日本の土地と社会』朝河貫一/著 柏書房 東京 2015.3 22cm 6,255,133p	LA210.4/A1/4
『朝河貫一書簡資料集[マイクロフィルム版]』福島県立図書館/[編] 福島県立図書館 福島 1997.3 35mm	MF289/A/1-
『朝河貫一書簡資料集[PDF版]』福島県立図書館/[編] 福島県立図書館 福島 2012.6 12cm 1枚	CS289/A1/3
『朝河貫一比較封建制論集』朝河貫一/著 柏書房 東京 2007.2 22cm 527,226,1p	LA210.4/A1/5
『島津忠久の生ひ立ち 低等批評の一例』朝河貫一/著 慧文社 東京 2007.6 22cm 127p	LA289.1/A2/1
『日本の禍機』朝河貫一/著 講談社 東京 1987.4 15cm 254p	LA319.1/A1/2
『日本の禍機』朝河貫一/著 実業之日本社 東京 1909 22cm 258p	LA319.1/A1/3
『日本の禍機』朝河貫一/著 宗高書房 東京 1985.11 22cm 272p『日本の禍機』(実業之日本社 明治42年刊)の複製 由良君美/解題	LA319.1/A1/1
『現代文で読む「日本の禍機」 世界的歴史学者朝河貫一の警告』朝河貫一/著 朝河貫一博士顕彰協会事務局 福島 2017.6 21cm 333p	LA319.1/A1/5
『入来院書 入来院家文書』朝河貫一/著 紀伊国屋書店 東京 2000.2 27cm 323,22,421,16p	LA219.7/A1/2-1
『入来院家文書 [CD-ROM版]』東京大学史料編纂所/編 紀伊国屋書店 2000.2 12cm 1枚	LA219.7/A1/2-2

『入来院家文書 CD-ROM版解説書』東京大学史料編纂所/編 紀伊国屋書店 東京 2000.2 26cm 21p	LA219.7/A1/2-3
『入来文書』朝河貫一/著 日本学術振興会 東京 1955.12 26cm 16,323,16,442,22p 図版	LA219.7/A1/1
『入来文書』朝河貫一/著 柏書房 東京 2005.8 22cm 720p	LA219.7/A1/3

◆目録◆

『Treasures from Japan in The Yale University Library イェール大学図書館所蔵日本関係資料』Edited by Daniel V.Botsman Beinecke Rare Book & Manuscript Library New Haven c2015 16×23cm 75p	LA302.1/Y1/1
『イェール大学所蔵日本関連資料研究と目録』東京大学史料編纂所/編 勉誠出版 東京 2016.3 22cm 5,631,10p	LA029.7/A1/1
『朝河貫一関係文献目録 1997年5月末現在』朝河貫一書簡編集委員会/原編 朝河貫一研究会 東京 1998.1 21cm p241-270	L289/A7/27
『朝河貫一資料 早稲田大学・福島県立図書館・イェール大学他所蔵(研究資料シリーズ No.5)』山岡道男/著 早稲田大学アジア太平洋研究センター 東京 2015.2 26cm 394p	L289/A7/92
『朝河貫一資料目録』福島県立図書館/編 福島県立図書館〔福島〕 1991 38cm 1冊	L289/A7/12
『朝河貫一著作・関係文献目録(稿) 早稲田大学. 社会科学研究所』朝河貫一書簡編集委員会/編 早稲田大学社会科学研究所朝河貫一書簡編集委員会 東京 1988 26cm 36枚	L289/A7/8
『朝河貫一博士展』福島県立図書館/編 〔福島県立図書館〕〔福島〕〔1984〕 19×60cm 1枚	L289/A7/48
『朝河博士顕彰遺品展の栞』福島県立図書館/編 〔福島県立図書館〕〔福島〕〔1953〕 19×97cm 1枚	L289/A7/14
『調査研究報告 第11号』国文学研究資料館文献資料部 1990.3 p35-40「イェール大学図書館と朝河貫一」金子英生/著	L289/A7/50
『福島県立図書館所蔵 朝河貫一資料目録』福島県立図書館〔福島〕 1992 26cm 57p	L289/A7/13

◆研究資料◆

『朝河貫一研究会ニュース No. 1-No. 90』朝河貫一研究会/[編] 朝河貫一研究会 東京 1991.6-2017.4	L289/A7/30
『朝河貫一博士顕彰協会会報 第4号-第36号[欠号有]』朝河貫一博士顕彰協会	L289/A7/39
『「驕る日本」と闘った男 日露講和条約の舞台裏と朝河貫一』清水美和/著 講談社 東京 2005.9 20cm 270p	L289/A7/57
『100年前からの警告 福島原発事故と朝河貫一』武田徹/著 花伝社〔東京〕 2014.5 20cm 184p	L289/A7/90
『K. Asakawa's pocket dictionary』朝河貫一博士顕彰協会事務局/編 朝河貫一博士顕彰協会 郡山 2007.9 19cm 1冊	L376.4/A11/10
『Kan'ichi Asakawa A Historian Who Worked For World Peace』武田徹/著 太陽出版 東京 2007.6 21cm 127p	L289/A7/69
『Kan'ichi ASAKAWA Immortal Historian』武田徹/著 朝河貫一博士顕彰協会 〔福島〕 2006.6 21cm 31p	L289/A7/64
『T. E. ハリファックス 英語を通して世界へ雄飛させた(「ふくしま」が育んだ朝河貫一シリーズ1)』武田徹/責任編集 朝河貫一博士顕彰協会〔福島〕 2009.6 19cm 201p	L289/A7/80
『アメリカが見つかりましたか 戦前篇』阿川尚之/著 都市出版 東京 1998.11 20cm 253 p160-196「朝河貫一 快活自在にして誰の前なりとも臆することなどなく」	L289/A7/35
『ふくしまの素顔 遙かなる光芒 朝河貫一』福島中央テレビ/編 〔福島中央テレビ〕〔郡山〕 〔1985〕 26cm 126p	L289/A7/6

『ふくしまの素顔 遙かなる光芒朝河貫一 福島中央テレビ開局15周年記念特別番組』[福島中央テレビ/制作] [福島中央テレビ] [福島] [1985] 25cm 124p	L289/A7/100
『ほくと日本の人びと NETT臨時増刊号』窪田弘/[著] 北海道東北地域経済総合研究所 東京 2013.7 21cm 186p 「第十五話 朝河貫一」	L281.04/K3/1
『偉大な朝河貫一博士 日本をアメリカを世界を考える』森芳久/著 森芳久 福島市 26cm 138p	L289/A7/44
『角田柳作とドナルド・キーン 群馬から世界へ』群馬県立土屋文明記念文学館/編 群馬県立土屋文明記念文学館 高崎 2016.10 30cm 58p	L289/T56/4
『幻の米国大統領親書 歴史家朝河貫一の人物と思想』朝河貫一書簡編集委員会/編 北樹出版 東京 1989.6 19cm 135p	L289/A7/9
『今に生きる朝河貫一 その生涯と業績』朝河貫一博士顕彰協会事務局/[編] 朝河貫一博士顕彰協会事務局 郡山 2004.5 21cm 83p	L289/A7/54
『最後の「日本人」朝河貫一の生涯(岩波現代文庫 社会94)』阿部善雄/著 岩波書店 東京 2004.7 15cm 319p	L289/A7/55
『最後の「日本人」朝河貫一の生涯(同時代ライブラリー)』阿部善雄/著 岩波書店 東京 1994.8 16cm 305p	L289/A7/18
『最後の「日本人」朝河貫一の生涯』阿部善雄/著 岩波書店 東京 1983.9 20cm 344p	L289/A7/4
『世界の朝河貫一博士を語る』阿部善雄/[著] [出版者・出版地・出版年不明] 21cm 18p	L289/A7/7
『太平洋戦争敗北の責任(別冊歴史読本)』新人物往来社 東京 1997.5 26cm 225p 「天皇宛ルーズベルト大統領親書の舞台裏」糠澤修一/著	L289/A7/24
『太平洋問題調査会(IPR)とその群像(WIAPSRサーチ・シリーズ No.6)』早稲田大学アジア太平洋研究センター太平洋問題調査会(IPR)研究部会/著 早稲田大学アジア太平洋研究センター 東京 2016.2 26cm 203p 「朝河貫一と高木八尺」山内晴子/著	L289/A7/94
『太平洋問題調査会<1925~1961>とその時代』山岡道男/編著 春風社 横浜 2010.3 21cm 6,306p	L289/A7/81
『朝河の道 家族で訪ねるプロムナード』朝河貫一博士顕彰協会 福島 2008 21×59cm 1枚	L289/A7/75
『朝河の道』朝河貫一博士顕彰協会 [福島] 2016.5 30×96cm 1枚	L289/A7/75-2
『朝河貫一 ある史学者の略伝』桑原善作/稿 [桑原善作] [東京] 1968.12 21cm 15p	L289/A7/3
『朝河貫一 その生涯と功績』渡邊剛/著 渡邊剛 [出版地・出版年不明] 26×37cm 10枚	L289/A7/42
『朝河貫一人・学問・思想 朝河貫一博士生誕120周年記念シンポジウム』井出孫六/[ほか]著 北樹出版 東京 1995.6 19cm 152p	L289/A7/19
『朝河貫一とその時代 Historian Curator and Peace Advocate』矢吹晋/著 花伝社 [東京] 2007.12 20cm 295p	L289/A7/71
『朝河貫一とマルク・ブロックの往復書簡 戦間期における二人の比較史家』向井伸哉/著 立教大学史学会 [東京] 2016.4 21cm 225p	L289/A7/95
『朝河貫一と四人の恩師(「ふくしま」が育んだ朝河貫一シリーズ 2)』武田徹/編著責任 朝河貫一博士顕彰協会 福島 2010.11 19cm 254p	L289/A7/80-2
『朝河貫一と日欧中世史研究』海老澤衷/編 吉川弘文館 東京 2017.3 22cm 6,264,39p	L289/A7/98
『朝河貫一の世界 不滅の歴史家偉大なるパイオニア』朝河貫一研究会/編 早稲田大学出版部 東京 1993.9 21cm 292,36p	L289/A7/17
『朝河貫一書簡集』朝河貫一書簡編集委員会/編 朝河貫一書簡集刊行会 [東京] 1991.2 22cm 866,224,18p	L289/A7/11
『朝河貫一博士の顕彰に関するレポート 没後50周年記念』朝河貫一研究会/編 朝河貫一博士顕彰協議会 [東京] 1998.8 26cm 36p	L289/A7/31
『朝河貫一博士顕彰協議会 朝河貫一記念財団設立へ』福島テレビ/[編] [福島テレビ] [福島] [2003] 30cm 7p	L289/A7/49

『朝河貫一論 その学問形成と実践(早稲田大学モノグラフ2)』山内晴子/著 早稲田大学出版部 東京 2009.1 30cm 538,3p	L289/A7/78
『朝河貫一論 その学問形成と実践(早稲田大学学術叢書7)』山内晴子/著 早稲田大学出版部 東京 2010.3 22cm 7,640p	L289/A7/82
『朝河正澄 戊辰戦争、立子山、そして貫一へ』武田徹/編 朝河貫一博士顕彰協会 [福島] 2006.8 21cm 110p	L289/A43/1
『貞子の語る入来文書』入来院貞子/著 高城書房 鹿児島 2012.5 20cm 291p	LA219.7/11/1
『日本の発見 朝河貫一と歴史学』矢吹晋/著 花伝社 [東京] 2008.12 20cm 265p	L289/A7/76
『日露戦争もう一つの戦い アメリカ世論を動かした五人の英語名人(祥伝社新書041)』塩崎智/[著] 祥伝社 東京 2006.7 18cm 211p	L289/A7/65
『秘蔵写真日露戦争 写真構成(別冊歴史読本永久保存版 第09号)』新人物往来社/編 新人物往来社 東京 1999.3 26cm 195p p178-187「朝河貫一」糠澤修一/著	L289/A7/43
『評釈 朝河貫一・珠玉のことば』朝河貫一研究会/編 二本松市教育委員会 二本松 2000.6 21cm 72p	L289/A7/38
『副読本 朝河貫一 一を以て之を貫く』二本松市教育委員会 二本松 1993 26cm 24p	L289/A7/15
『福島の人物ものがたり』同編集委員会/編 日本標準 東京 1990 21cm 175p 朝河貫一の記述あり	L281.04/F3/1
『福島県が生んだ平和と人権の先駆者たち(福島県九条の会ブックレット1)』吉原泰助/著 福島県九条の会 福島 [2009] 30cm 12p p5-7「祖国の覇権主義・国家主義を憂えた歴史学者＝朝河貫一(中通り)」	L281.04/Y4/1
『福島県文学全集 第2巻第Ⅱ期随筆・紀行・詩編 昭和編Ⅰ』澤正宏/編 郷土出版社 長岡 2002.7 20cm 551p p262-267「朝河貫一と私-木村毅君に答える-」會津八一/著	L918.6/F4/2-2
『福島県文学全集 第5巻第Ⅱ期随筆・紀行・詩編 現代編Ⅱ』澤正宏/編 郷土出版社 長岡 2002.11 20cm 355p p166-175「朝河桜」井出孫六/著	L918.6/F4/2-5
『明治を支えた「賊軍」の男たち(講談社+α新書464-2C)』星亮一/[著] 講談社 東京 2010.12 18cm 186p p168-181「第10章 朝河貫一 無謀な侵略戦争に反対し全米で尊敬を受けた学究」	LA281.04/H2/1
『歴史浪漫 ふるさとの人物史』二本松市/[編] 二本松市 二本松 1999.9 21cm 50p p1-2「朝河貫一」	L281.2/N2/1
『甦る朝河貫一 不滅の歴史家 偉大なるパイオニア』朝河貫一研究会 東京 1998.1 21cm vi,354,9p 図版	L289/A7/26

◆論文など◆

『アジア太平洋研究科論集 11号』早稲田大学アジア太平洋研究センター・大学院アジア太平洋研究科出版・編集委員会 東京 2006.6 26cm 317p p145-170「朝河貫一 幼少年期の知的精神的成長」山内晴子/著	L289/A7/70
『アジア太平洋討究 第19号』早稲田大学アジア太平洋研究センター出版・編集委員会 2013 p103-127「朝河貫一と埴原正直 日米関係における外交提言」山内晴子/[著]	L289/A7/89
『キリスト教史学 第58集』キリスト教史学会 2004.7 p92-113「キリスト教の寛容 朝河貫一の日本外交の理念の場合」山内晴子/著	L289/A7/60
『すぎのめ 第3号』福島市杉妻地区史跡保存会 1980 p40-42「朝河博士を敬慕して」高橋利夫/著	L211/F8/1-3
『せたかい通信 平成17年4月1日号』世田谷区誌研究会 2005.4 p2-3「日本近現代史の陰忘れられた人達(1) 歴史研究家 朝河貫一」瀬村進/著	L289/A7/59
『ラジオ深夜便 通巻137号』NHKサービスセンター 2011.12 p41-55「明日へのことば 歴史学者・朝河貫一に教えられたこと」山内晴子/著	L289/A7/85
『亜細亜大学教養部紀要 第59号』亜細亜大学教養学部 1999 「朝河貫一の日本留学時代-英文日記抄録(その1)」杉淵忠基/著	L289/A7/40

『稲門英語会だより 第19号』稲門英語会2011.11 p1-2「歴史学者 朝河貫一からのメッセージ」山内晴子/著	L289/A7/84
『会津会々報 第109号』会津会 2003.6 p142-145「郭公抄 会津関係の本の紹介 日本の禍機 朝河貫一著〔、他〕	L051/A2/1-
『敬愛大学国際研究 第19号』敬愛大学 2007.7 p87-117「朝河貫一の関西調査旅行 1918年7月-1919年1月」増井由紀美/[著]	L289/A7/91
『国際人流 あなたと外国人を結ぶ情報誌 第26巻第7号通巻314号』入管協会 2013.7 p43-47「じんりゅう時評 朝河貫一に学ぶ歴史認識と国民的反省力の養成」佐伯浩明/著	L289/A7/87
『渋沢研究 第21号』渋沢史料館 2009.1 p105-111「書評 矢吹晋著『朝河貫一とその時代』(花伝社、2007年12月発行)」山内晴子/著	L289/A7/79
『早稲田ウィークリー 第1377号』早稲田大学学生部 2015.10 [p4-5]「米国名門大学の教壇に立った二人の日本人学者」	L289/A7/93
『中央学院大学教養論叢 第6巻第2号』中央学院大学 1986「朝河貫一の後年を彩った女性 その哀切なる愛と傷心の軌跡」石川衛三/著	L289/A7/22
『中央学院大学人間・自然論叢 第1号』中央学院大学 1994 p3-37「評伝ベラ・アルウィン」石川衛三/著 p165-256p「朝河貫一とIALA」石川衛三/著	L289/A7/20
『東京国際大学論叢 第5号通巻第56号』東京国際大学 1999.9 p25-41「朝河貫一伝への試み」井出孫六/著	L289/A7/41
『東京新聞 1998年12月13日』東京新聞 1998.12 「100億人の200世紀44「ポーツマス」から消された男」	L289/A7/36
『東京大学日本史学研究室紀要 第16号』東京大学大学院人文社会系研究科・文学部日本史学研究室 2012.3「朝河貫一とアンドレ・ゴンティエ: 福島県立図書館所蔵往復書簡の紹介」新田一郎[ほか]/編	L289/A7/86
『東京大学日本史学研究室紀要 第13号』東京大学大学院人文社会系研究科東・文学部日本史学研究室 2009.3「イェール大学図書館所蔵朝河貫一文書(朝河ペーパーズ)の基礎的研究」佐藤雄基/著	L289/A7/83
『東洋英和女学院大学現代史研究所紀要「現代史研究」第10号』東洋英和女学院大学 2014.3 p127-185「朝河貫一の理想主義と現実主義 天皇制民主主義の学問的起源」山内晴子/[著]	L289/A7/88
『二本松歴史研究会資料 第105号』二本松歴史研究会 2001.2p1-6「郷土の生んだ世界的歴史学者朝河貫一」渡邊剛/述	L210.05/N1/1-105
『年報 近代日本研究 18』近代日本研究会 1996.11 p197-224「朝河貫一における「世界史」の視点(特集 比較の中の近代日本思想)」梶田明弘/著	L289/A7/29
『比較日本文化学研究 創刊号』広島大学大学院文学研究科総合人間学講座 2008.3 p53-127「戦前日本史学の国際環境-朝河貫一宛書簡の紹介を中心に-」河西英通/著	L289/A7/73
『文藝春秋 第81巻第6号』文藝春秋 2003.5 p80-81「朝河先生の宿題」加藤良三/著	L289/A7/53
『立教大学日本学研究所年報 第16号』立教大学日本学研究所 2017.7 p71-82「朝河貫一とジョン・ケアリー・ホールの往復書簡の紹介-1910年代英語圏における日本史研究と日本アジア協会の歴史家たち-」佐藤雄基/[著]	L289/A7/58

(地域資料チーム 原 馨)

長田 弘 (1939-2015)

詩人。1939 (昭和14) 年11月10日、福島市に生まれる。エッセーや評論、英米の絵本の翻訳など幅広い分野で活躍。著書に『詩人であること』『子どもの本の森へ』、子どもの本に『あいうえお、だよ』、翻訳に「詩人が贈る絵本」シリーズなど。2015 (平成27) 年5月3日、75歳で逝去。その蔵書は福島県立図書館に寄贈され、2017 (平成29) 年2月5日、「長田弘文庫」として開設された (詳細は当館発行の『郷土資料情報 No. 57』、『図書館報あづま通巻270号』)。福島との関わりや子どもの本の仕事については、前号 (No. 57) で触れた。今回は長田が残した言葉や文章から、子どもの本や「言葉」に対する考え方について紹介する。

「おくりものとしての子どもの本」

「子どもの本のありうべきすがた」について、長田はこう述べている。

おくりものとしての子どもの本。じぶんの言葉で子どもに語りかける、大人といま子どもであるものとの一対一の場に差し込まれる、おくりものとしての子どもの本。¹

また、絵本については、

絵本という本のあり方のもっとも大きな特質は「手わたす」本であるということ。²

絵本や物語というのは、突きつめて言えば、世界のつくり方の秘密を子どもたちに伝える、方法としての本です。³

としている。臨床心理学者・河合隼雄との対談では、ユリー・シュルヴィッツの『よあけ』を例に挙げ、「(前略) おじいさんがそこで何をやっているのか、どうして子どもがそこで寝て夜を過ごすかということも、本当はよくわからない」としたうえで、一概には言えないとしながらも、「わからないから、読むことでそれに意味をあたえていくほかできないんです。その意味では (中略)、『よあけ』が中国の詩から着想を得ているように、絵本は「詩」に近いだろうと思いますね。」と語った。⁴なお長田は、子どもの本は大人も読むべきだ、読んでもいい、とも主張している。⁵

言葉へのこだわり

子どもの本の表記については、こんなこだわりを語っている。

最初にどういう表記に出会うかでちがってくるのは語感です。(中略)「話」「お話」「おはなし」がどう違うかということが、子どもの本では大事です。子どもたちは子どもの本からこういう語感を学んでいきます。⁶

それは、「父がはじめて買ってくれた本は、宮沢賢治の童話だった。わたしはいまでも、『どんぐりと山猫』にでてくる (中略) 山ねこの手紙の結びの言葉からうけた異常にあざやかなおどろきをわすれられない。(中略) 言葉の記憶は、わたしにはこうして、文章としての言葉というよりはるかに、言葉そのもののそなえる語りくちというか、口調の、なつかしくあざやかな記憶のただなかにはじまったのだった」⁷という長田自身の体験に根ざしているのではないだろうか。

翻訳については、「日本では翻訳する場合、その言葉の背景にある文化や習慣を無視しがちです」⁸と指摘する一方、訳詩について「もともとの詩にそなわっているイメージの力にくわえて、その詩を日本語の言葉にするのは、なにより愛着だからです。訳詩は、ですから、本質的に共感の場をつくりだそうという試みでもあります」⁹とその楽しみを語っている。

「ハードとソフトがくっついてる」

ハード面（本の形、手ざわり、色、装丁の絵、挿絵など）についても思いを述べている。

（前略）幼年物語の場合には、ほかのどの本よりもハードとソフトがくっついてるものなんです。¹⁰

とりかえのきかない「その本でなくてはいけない」本の記憶を、それぞれの胸の本棚にのこすのが、絵本という本です。¹¹

以上のことから、長田が自ら筆をとった絵本や子どもの本、翻訳作品に込められた思いを想像することができるだろう。

本、言葉に多く向き合ってきた長田。その蔵書は8,396冊に及ぶ。彼は全ての本を読破したのだろうか。彼はこう言う。

読書というのは、そこにその本があるというだけでも、あの本があるなどおもうことだって、すでに読書の領域にはいってるんです。¹²

当館では、長田弘文庫の見学会を行っている（開催は不定期）。長田が手元に置き、「読書」した本に、ぜひふれてみてほしい。

最後に、長田にとっての「言葉」が何であるか、端的に語っている一文を紹介する。

「だれもがよくしっていて だれもがよくしらないもの さて いったい なあに？」
答えは言葉。¹³

¹ 『笑う詩人』人文書院、1989年、p103

² 『なつかしい時間（岩波新書）』岩波書店、2013年、p97

³ 『小さな本の大きな世界』クレヨンハウス、2016年、p287

⁴ 『子どもの本の森へ』岩波書店、1998年、p154

詩と絵本の関係については、『クロワッサン（通巻589号）』（マガジンハウス、2002年5月25日）p108でも述べている。「心の中に詩が生まれる」「微笑をもった本」、そういう絵本には形式はポエムでなくても詩の女神ミューズがいるという。

⁵ 『子どもの本の森へ』岩波書店、1998年、p14-15

『クロワッサン（通巻589号）』マガジンハウス、2002年5月25日、p108

『なつかしい時間（岩波新書）』岩波書店、2013年、p97 など

⁶ 『本のお話をしよう』晶文社、2002年、p49-50

⁷ 『詩人であること（同時代ライブラリー）』岩波書店、1997年、p44-45

⁸ 『Voice（第295号）』PHP研究所、2002年7月、P137

⁹ 『なつかしい時間（岩波新書）』岩波書店、2013年、p117

¹⁰ 『本のお話をしよう』晶文社、2002年、p22

¹¹ 『小さな本の大きな世界』クレヨンハウス、2016年、p12

¹² 『笑う詩人』人文書院、1989年、p99-100

¹³ 『小さな本の大きな世界』クレヨンハウス、2016年、p187

（児童資料チーム 小林沙織）

福島県関係書誌の紹介・2017

このリストは、当館で所蔵する2017年1月から12月までに刊行された福島県関係の資料のなかで、1つの主題や人物について20以上の文献を紹介しているものを集成した書誌です。(一部の主題は20以下でも収録しています)

主題編と人物編に区分し、それぞれ主題、人名の50音順、発行年月順に配列しました。なお、主題は検索の便宜を優先して付けましたので、厳密な体系化は考慮していません。

2016年以前発行資料で、「福島県関係書誌の紹介・2016」に未収録のものも併せて集録しました。

特定の主題、人物についての文献リストとして活用していただければ幸いです。

凡例

主題

⇨関連主題

- ・(掲載数) 項目
「論文名」 編著者 『資料名』 編著者
出版者 発行月 項目掲載頁
*備考

主題編

会津

- ・(70)参考文献
『会津・近世思想史と農民』 前田新／著
歴史春秋社 2016年12月 p378-382

会津坂下町

- ・(51)参考文献
「長井前ノ山古墳調査報告2 発掘調査」 福島県立博物館学芸課考古学分野
／[著] 『福島県立博物館紀要 第31号』 福島県立博物館 3月 p67-69

会津若松市

- ・(38)参考文献
『郡山遺跡 12 総括報告書』(会津若松市文化財調査報告書 第151号) 会津若松市教育委員会 3月 p88

アンモナイト

- ・(26)引用文献
「相馬中村層群中ノ沢層の Haploceratids 群集」 佐藤正・竹谷陽二郎・猪瀬弘瑛・橋本亮平／[共著]

『福島県立博物館紀要 第31号』
福島県立博物館 3月 p89-90

医学・医療

⇨太田総合病院

- ・(51)業績 発表論文
『太田総合病院学術年報 第52号』
太田総合病院 9月 p10-22, 66

⇨福島県立医科大学

- ・福島県立医科大学業績 論文・著書・研究発表等
『福島県立医科大学業績集 平成27年』
福島県立医科大学附属学術情報センター
3月 p1-640

石那坂の戦い

- ・(30)参考文献〈書籍より〉
『石那坂』 石原洋三郎 8月 p36

いわき市

- ・(21)参考文献
『後田遺跡・後田古墳群 鮫川下流域の丘陵上に構築された古墳群の調査』(いわき市埋蔵文化財調査報告 第178冊)
いわき市教育文化事業団／編 いわき市教育委員会 2月 p54
- ・(93)引用・参考文献
『泉町C遺跡 2』(いわき市埋蔵文化財調査報告 第179冊) いわき市教育文化事業団／編 いわき市教育委員会 3月 p356-358
- ・(60)参考文献
『神谷作古墳群 震災復興事業にともなう101号墳の調査』(いわき市埋蔵文化財調査報告 第180冊) いわき市教育文化事業団／編 いわき市教育委員会 3月 p91-92

教育

⇨福島県教育会雑誌

- ・昭和戦前期 福島県教育会雑誌目次集【解説】
『近代日本における教育情報回路と教育統制に関する総合的研究 II 中間報告書』 教育情報回路研究会／[編]
2014年9月 p104-148

行政資料

・(882)

『福島県立図書館所蔵 県内行政機関
発行資料一覧 (平成 27 年 10 月～平成
28 年 12 月受入)』 福島県立図書館資
料情報サービス部地域資料チーム 2 月
p3-24

・(20)県執行部資料索引 (2～3 月分)

『福島県議会資料 平成 29 年 2～3 月
号』 福島県議会事務局政務調査課
4 月 p183-184

・(27)県執行部資料索引 (4～5 月分)

『福島県議会資料 平成 29 年 4～5 月
号』 福島県議会事務局政務調査課
6 月 p193-194

建築

⇔旧亀岡家住宅

・(21)参考文献

「『亀岡正元家文書』から見た「旧亀岡
家住宅」の建設年代」 高橋信一／[著]
『郷土の香り 第 49 集』 伊達市保原
町文化財保存会 4 月 p56

看護学

⇔福島県立医科大学

・(86)業績一覧 (2016 年 1 月～12 月)

『福島県立医科大学看護学部紀要 第
19 号』 福島県立医科大学看護学部
3 月 p33-42

自然史

・(122)引用・参考文献

『ふくしま 5 億年の自然史』 福島県立
博物館 7 月 p84・[88]

自由民権運動

・(173)東北自由民権運動関係文献目録(1986
～2015 年) 【福島】

『東北の近代と自由民権 「白河以北」
を越えて』 友田昌宏／編著 日本経済
評論社 2 月 p330-338

縄文土器

・(40)主な文献

『縄文土器の年代 2』 福島県文化財
センター白河館 3 月 p49

植生

⇔相馬

・(60)引用文献

「資料 東日本大震災の復旧事業の際
に生物多様性保全のために福島県北部
の海岸に設置された保護区の植物相と
植生」 曲渕詩織・渡邊祐紀・黒沢高秀
／[共著] 『福島大学 地域創造 第
29 巻第 1 号』 9 月 p126-129

植物

⇔コケ

・(98)引用文献

『福島県苔類誌』 湯澤陽一 3 月
p218-220

書誌

・(10)

『書誌年鑑 2017』 中西裕／編 日外
アソシエーツ 12 月

*泉官衙遺跡(p27),大熊町(p57),郡山市
(p168),田中玄幸(p304),円谷英二(p330),
二本松市(p378),林修(p396),福島県
(p416),福島第一原子力発電所事故
(p416-417),松平定信(p452)の書誌が掲
載. 「書誌解説」の医書は『医家原田家
書籍目録』(只見町教育委員会 2016)
について.

石仏

・(46)国内地区別分類 福島県

『「日本の石仏」誌項目別分類目次
No.1 号～No.75 号』 [日本石仏協会]
[発行年不明] p32-33

蔵書目録

・(391)購入図書一覧 (平成 28 年度),寄贈図
書一覧 (平成 28 年度)

『福島県議会資料 平成 29 年 2～3 月
号』 福島県議会事務局政務調査課
4 月 p187-199

大学

⇔福島大学

・(38)業績一覧

『行政社会論集 第 29 巻第 4 号』 福
島大学行政社会学会 3 月 p219-223
*業績一覧から著書や論文の数を掲出

- ・(38)編集後記
『商学論集 第85巻第4号』 福島大学経済学会 3月 p177-182

*編集後記から業績のうち著書や論文の数を掲出

⇔いわき短期大学

- ・(23)研究活動報告
『いわき短期大学研究紀要 第50号』
いわき短期大学 3月 p185-193

⇔いわき明星大学

- ・(21)教職員名簿(2016年10月31日現在)ならびに業績リスト(2015年11月1日から2016年10月31日まで)

『いわき明星大学科学技術学部研究紀要 第30号』 いわき明星大学 3月 p61-67

*業績のなかの論文と著書を掲出

伊達市

- ・(28)参考文献, 引用・参考文献
『一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告 5』(福島県文化財調査報告書 第514集) 福島県文化振興財団遺跡調査部/編集 福島県教育委員会 2016年10月 p8, 20, 40, 50

団子山古墳

- ・(52)引用・参考文献
『福島大学考古学研究報告 第10集』 福島大学行政政策学類考古学研究室/[編]
福島大学行政政策学類 3月 p49-50
*文献数は塚野目古墳群の分との合計数

地図

- ・(5564)
『郡山市歴史資料館収蔵資料目録 第31集 佐藤和司氏寄贈地図』 郡山市教育委員会 3月 172p

塚野目古墳群

- ・(52)引用・参考文献
『福島大学考古学研究報告 第10集』 福島大学行政政策学類考古学研究室/[編]
福島大学行政政策学類 3月 p49-50
*文献数は団子山古墳の分との合計数

底生動物

- ・(93)引用文献

『猪苗代湖及びその周辺の池沼・湿地に生息する底生動物』 塘忠頭 2月 p30-33

図書館

⇔いわき市

- ・(32)参考資料
『いわきの図書館 いわき総合図書館 開館10周年記念企画展』 いわき市立いわき総合図書館 11月 [p23]

夏井廃寺跡

- ・(67)参考文献・論文等
「夏井廃寺跡をめぐる諸問題」 中山雅弘/著 『いわき市教育文化事業団研究紀要 第14号』 いわき市教育文化事業団 3月 p17-19

浪江町

- ・(25)引用・参考文献
『大平山城跡・寺院跡, 大平山A横穴墓群』(浪江町埋蔵文化財調査報告 第20冊) いわき市教育文化事業団/編 浪江町教育委員会 9月 p74-75

檜葉町

- ・(42)参考文献, 参考・引用文献
『県道広野小高線関連遺跡発掘調査報告 1』(福島県文化財調査報告書 第517集) 福島県文化振興財団遺跡調査部/編集 福島県教育委員会 3月 p14, 142, 190, 193
- ・(22)引用・参考文献, 引用文献
『常磐自動車道遺跡調査報告 73』(福島県文化財調査報告書 第520集) 福島県文化振興財団遺跡調査部/編 福島県教育委員会 3月 p14, 36, 42

二本松市

- ・(75)参考・引用文献
『奥州二本松』 歴史春秋出版 2016年12月 p155-156
- ・(27)参考文献
『郡山台遺跡 11』(二本松市文化財調査報告書 第61集) 二本松市教育委員会 2017.3 p44

八十里越

- ・(42)引用文献, 参考文献
『八十里越の道筋 歴史の道八十里越
会津と越後の道筋調査報告』 長谷部
忠夫 2016年11月 p99-100

東日本大震災

- ・(31)参考文献
「津波被災者と原発避難者の交流」 齊
藤綾美/著 『東日本大震災と<復興>
の生活記録』 吉原直樹/編著 六花出
版 3月 p315-316
- ・(10646)
『東日本大震災福島県復興ライブラリ
ー資料一覧 平成29年3月11日付』
福島県立図書館 3月 206p

⇔教育

- ・(28)文献
「東日本大震災後の福島における国語
科教育モデルの構築に向けて」 高橋正
人/[著] 『言文 第64号』 福島大
学国語教育文化学会 3月 p左20-31

⇔檜葉町

- ・(23)参考文献
「転機を迎えた檜葉町の仮設住宅自治
会」 松本行真/著 『東日本大震災と
<復興>の生活記録』 吉原直樹/編著
六花出版 3月 p245-247

⇔農業

- ・(20)引用・参考文献
「東日本大震災による津波被災地域の
農業復興における自助・共助・公助の連
携」 渋谷往男・山田崇裕/[共著] 『自
助・共助・公助連携による大災害からの
復興』 門間敏幸/編著 3月
p129-131

⇔農林業

- ・(91)参考文献
『原発事故と福島の農業』 根本圭介/
編 東京大学出版会 9月 p35, 74-75,
120-122, 149-151, 166

⇔文学

- ・(363)震災後作品出版・公開年度一覧

『東日本大震災後文学論』 限界研/編
南雲堂 3月 p i-lxii
*紙媒体の作品を掲出

百姓一揆

- ・(23)参考資料
『民衆の叫び 江戸時代の史料を読む』
郡山市歴史資料館 [2016年10月]
p11

広野町

- ・(35)参考文献
『桜田IV遺跡 災害公営住宅内遺跡調
査報告2』 (広野町文化財調査報告 第6
冊) いわき市教育文化事業団/編 広
野町教育委員会 2月 p87-88

福島市

- ・(31)参考文献
『刈谷藩分領奥州福島湯野陣屋』 三ツ
松悟 2016年11月 巻末

福島第一原子力発電所事故

- ・(76)参考文献
『原発被災地の復興シナリオ・プランニ
ング』 金井利之/編著 公人の友社
2016年11月 p146-149
- ・(77)参考文献
『「復興」が奪う地域の未来 東日本大
震災・原発事故の検証と提言』 山下祐
介/著 岩波書店 2月 p267-272
- ・(59)参考文献
『原発は“安全”か たった一人の福島
事故報告書』 竹内純子/著 小学館
1月 p222-223
- ・(41)参考文献 (福島原発関係)
『大学教育と「絵本の世界」 中巻』 前
島康男/著 創風社 2015年10月
p251-253
- ・(36)works cited
「Nuclear safety regulation before the
Fukushima accident and Post-accident
reform」 Hideaki Shiroyama/ [著]
『FIVE YEARS AFTER』 Keichi
Tsunekawa/ [編] [東京大学出版
会] 2016年12月 p77-79

- ・(38)works cited
 - 「Corporate influence and the Fukushima daiichi nuclear accident:How has TEPCO survived?」 『FIVE YEARS AFTER』 Keiichi Tsunekawa／〔編〕 [東京大学出版会] 2016年12月 p110-112
- ・(53)参考にした主な出版物
 - 『核惨事! 東京電力福島第一原子力発電所過酷事故被災事業者からの訴え』 渡辺瑞也／著 批評社 2月 p266-269
- ・(30)参考文献
 - 「メディア経験としての「原発事故」」 山腰修三／著 『戦後日本のメディアと原子力問題』 山腰修三／編著 ミネルヴァ書房 3月 p129-131
- ・(36)参考文献
 - 「「原発事故避難者」の表象と地元メディアのジレンマ」 新嶋良恵／著 『戦後日本のメディアと原子力問題』 山腰修三／編著 ミネルヴァ書房 3月 p199-202
- ・(132)参考文献
 - 『故郷喪失と再生への時間 新潟県への原発避難と支援の社会学』 松井克浩／著 東信堂 8月 p277-282
- ⇔教育
 - ・(42)参考資料編
 - 『ふくしま放射線教育・防災教育指導資料 活用版』 福島県教育委員会 3月 p245-251
- ⇔甲状腺検査
 - ・(29)文献
 - 「福島県における甲状腺検査の諸問題」 濱岡豊／〔著〕 『科学 第86巻第11号』 2016年11月 p1101
 - ・(34)参考文献
 - 「甲状腺がんデータの分析結果」 津田敏秀／〔著〕 『科学 第86巻第11号』 2016年11月 p1114-1115

- ・(21)文献
 - 「チェルノブイリと福島のデータの誤解を招く比較」 平沼百合／〔著〕 『科学 第86巻第11号』 2016年11月 p112
- ・(84)文献
 - 「福島県の甲状腺検査についてのファクトシート (2017年9月)」 平沼百合／〔著〕 岩波書店 『科学 第87巻第10号』 10月 p908-911
- ⇔東京電力
 - ・(100)参考文献
 - 『東京電力-原発事故の経営分析』 谷江武士／著 学習の友社 3月 p216-219
- ⇔保育
 - ・(46)文献
 - 「第7章 震災・放射能災害下の家庭生活と保護者の意識」 加藤孝市／〔著〕 『東日本大震災・放射能災害下の保育』 関口はつ江／編著 ミネルヴァ書房 3月 p234-237
 - ・(46)文献
 - 「第9章 放射能災害と保育問題に関する研究の現在」 岡野雅子／〔著〕 『東日本大震災・放射能災害下の保育』 関口はつ江／編著 ミネルヴァ書房 3月 p274-277
- ⇔放射性物質
 - ・(29)参考文献
 - 「インターネットを通じて可視化する原発・放射線被曝問題に対する人びとの意識」 平井智尚／著 『戦後日本のメディアと原子力問題』 山腰修三／編著 ミネルヴァ書房 3月 p274-276
- ⇔放射線障害
 - ・(83)参考文献
 - 『放射線を怖れないで! 福島へのメッセージ』 須藤鎮世／著 幻冬舎メディアコンサルティング 2月 p173-182

⇨風評被害

- ・(24)引用・参考文献
「放射能汚染に対する消費者行動の特徴と風評の発生実態・対応」 門間敏幸・ルハタイオパット プウオンケオ／[共著] 『自助・共助・公助連携による大災害からの復興』 門間敏幸／編著 3月 p227-228

戊辰戦争

- ・(29)参考文献
『明治維新というクーデター』 星亮一／著 イースト・プレス 2月 p341-342
- ・(35)主な参考文献
『先人の思いを後世に 公益財団法人会津弔霊義会百年誌』 野口信一・町田久次／編著 会津弔霊義会 9月 p145

磨崖仏

- ・(75)参考文献
『福島の磨崖仏、鎮魂の旅へ』 青木淳／著 淡交社 9月 p202-203

南会津町

- ・(34)参考文献
『久川城跡試掘調査報告』(南会津町埋蔵文化財調査報告書 第1集) 南会津町教育委員会 3月 p30

南相馬市

- ・(57)引用・参考文献
『農山漁村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡調査報告 2』(福島県文化財調査報告書 第515集) 福島県文化振興財団遺跡調査部／編集 福島県教育委員会 2月 p14, 120-121
- ・(46)引用・参考文献
『県道北泉小高線関連遺跡発掘調査報告 2』(福島県文化財調査報告書 第516集) 福島県文化振興財団遺跡調査部／編集 福島県教育委員会 2月 p10, 24, 30, 38

文書目録

- ・(1674)
『福島県歴史資料館収蔵資料目録 第48集 県内諸家寄託文書 佐藤五兵衛家文書』 福島県文化センター歴史資料課／編集 福島県文化振興財団 3月 96p

⇨福島市

- ・(2699)荒井支所文書目録
『福島市史資料叢書 第99輯 荒井支所文書』 福島市史編纂委員会／編集 福島市教育委員会 3月 p123-198

歴史

- ・(34)福島県
『地方史文献年鑑 2015 郷土史研究雑誌目次総覧 19』 飯澤文夫／編 岩田書院 2016年10月 p60-70

和算

- ・研究報告(第1号～第12号)・研究集録(第13号～第39号)目次
『研究集録 第40号』 福島県和算研究保存会 8月 巻頭

人物編

蘆名氏

- ・(55)参考文献
『蘆名騒動 角館・御家断絶と再興事件』 江井秀雄／著 無明舎出版 4月 p146-147

飯沼貞吉

- ・(22)出典文献省略一覧
『白河・戊辰戦争余談資料 白河地区経営者協会平成14年度総会記念講演』 堀田節夫 2002年6月 p34

今井 照

- ・(314)研究業績
『行政社会論集 第29巻第4号』 福島大学行政社会学会 3月 p128-142
*研究業績から著書と論文の数を掲出

加藤嘉明

- ・(198)参考文献
『加藤嘉明 「賤ヶ岳七本鎧」知られざる勇将』 近衛龍春／著 PHP 研究所
5月 p564-566

川島清

- ・(215)主要参考文献
『川島清 彫刻の黙示』 濱田千里／編
いわき市立美術館 [ほか] c2016
p217-221

菊池壮蔵

- ・(37)研究業績等
『商学論集 第85巻第4号』 福島大学
経済学会 3月 p173-176
*研究業績等から著書や論文の数を掲出

後藤満一

- ・(817)後藤満一教授大阪大学時代の業績, 欧文原著・総説・著書, 和文原著・総説・著書
『後藤満一教授退任記念業績集』 福島
県立医科大学医学部臓器再生外科学教
室 3月 p15-27, 171-194, 195-232

斎藤清

- ・(297)斎藤清文献目録
『斎藤清からのメッセージ 生誕110
年・没後20年記念』 福島県立美術館
10月 p140-145

島尾敏雄

- ・目録
『島尾敏雄特別資料目録 かがしま近
代文学館所蔵資料目録』 かがしま近
代文学館 2016年3月 p14-425

雪村

- ・(73)主な参考文献 (順不同)
『雪村 謎の生涯を追う』 富山章一／
著 茨城新聞社 3月 p142-147

田口亮男

- ・(19)参考文献
「植物学者中原源治と田口亮男」 阿部
武／[著] 『会津生物同好会誌 No.54』
会津生物同好会 2016年3月 p21

竹之下誠一

- ・(625) 海外論文, 国内論文
『竹之下誠一教授退任記念業績集 足
跡が未来をつくる』 竹之下誠一教授退
任記念業績集刊行委員／[編] 福島県立
医科大学器官制御外科学講座 3月
p17-58, 59-106

円谷英二

- ・(51)参考文献
『ゴジラは円谷英二である 航空教育
資料製作所秘史』 指田文夫／著 えに
し書房 2016年12月 p201-203

徳一

- ・(63)参考文献
『徳一と勝常寺』 白岩孝一／著 歴史
春秋社出版 4月 p557-560

中原源治

- ・(19)参考文献
「植物学者中原源治と田口亮男」 阿部
武／[著] 『会津生物同好会誌 No.54』
会津生物同好会 2016年3月 p21

松田松雄

- ・(243)文献目録
『松田松雄展』 松田松雄／[画] 岩
手県立美術館 2015年10月
p104-107

祐天

- ・(57)参考文献
『祐天上人の名号石塔』 祐天寺研究
室／編 祐天寺 5月 p94

(地域資料チーム 田中信乃)

《県立図書館よりのお知らせ》

**国土地理院発行2万5千分の1地形図（福島県内分）について、
過去発行のものを含む全地形図がご覧いただけるようになりました。**

5万分の1地形図とともに、県内全ての地形図が館内で閲覧できます。

詳しい所蔵情報（地形図名・図歴）に関しては、当館ホームページトップ⇒「資料案内」
⇒「国土地理院地図（県内）」より縮尺別にご確認ください。

来館利用の際には、当館貸出登録カウンターにて利用手続きをお願いいたします。また、
県内外からの複写依頼も承っております。詳しくは表紙に記載の連絡先までお問合せくだ
さい。

=====

福島県郷土資料情報 No. 58

発行日：2018年2月23日

編集・発行：福島県立図書館

=====